



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会

日本における産科麻酔 —エピデュラル出産を考える—

講師 大西 香世（国立成育医療研究センター研究所・政策科学部研究員）

日時：2014年9月27日（土）18時～20時

会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地 2-12-10
築地MFビル 26号館 5階

参加費：会員 700円 非会員 1,200円 学生 500円

参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで
メールでお申込ください。pwesh@ellesnet.co.jp

フランスやアメリカでは9割以上、韓国やシンガポールなど他のアジア諸国でも近年増え続けている硬膜外麻酔（エピデュラル）による出産は、日本においては全体の3%未満であると言われています。近年、女性の社会進出によって女性のライフスタイルも多様に変化してきましたが、こと出産方法に関すると、選択の自由はあまりあるようには思えません。どうして日本においてはエピデュラルによる出産が少ないのでしょうか。

日本には「おなかを痛めてこそ子どもに愛情がわく」といった社会規範があるために、エピデュラル出産を選択しにくい、またはしたくないという女性が多い、と指摘する産科医や麻酔科医も多く存在します。ところが、理由はそれだけではありません。日本では、緩痛のための麻酔は自由診療であるため、女性にとって健康保険という経済的サポートがないこと、また、クリニックでの出産が多く、麻酔科医が24時間体制で常駐できないことなど制度面での多くの制約があります。「おなかを痛めてこそ」といった社会規範ばかりがクローズアップされると、かえって女性はその規範に縛られてしまうデメリットもあります。帝王切開などで出産した女性が、自信をなくして産後うつになってしまうエピソードも、その典型例でしょう。

本勉強会では、今年初夏にパリで行った開業助産師さんのかたへのインタビューなども交えながら、エピデュラル出産が日本で少ない要因として、社会規範以外の制度的な要因にフォーカスしてお話し、みなさんと一緒に日本におけるエピデュラル出産をとりまく環境について考え、ディスカッションしていきたいと思えます。

【講師プロフィール】

国立成育医療研究センター研究所・政策科学部研究員。

早稲田大学政治経済学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科修了。博士（法学）。

フルブライト奨学生として米国の大学院に留学中、ジェンダーの視点から、医療政策を始めとした各国の政策を国際比較する分析視角を学ぶ。

政治学・政策学の専門を生かし、女性や子どものウェル・ビーイングについて積極的に政策提言できるよう活動中。